

作成: 芝崎

33. 思い出篇 : 高層ビル/マンションに関わる話

- (1) シンガポールに出張していた時、お客さんの一人が休日にランチ来いよと誘ってくれた。当日、彼と最寄りの駅で会い、彼の家に向かう時、「家に入ったら、一つの事守ってほしい」と言われる。何だろうと思いつつ、そこは高層マンションで 35F が彼の家だった。その頼みとは、絶対に窓を開けない事だった。窓を開けるとものすごい風が吹き込み、部屋中のものが飛び廻ることで後始末が大変だとの事だった。
- (2) 時が変わり、311: 東日本大震災の時、横浜にも M5 クラスの地震が来た、その時私はみなとみらいの高層ビルの会社の 14F に。約 30 cm 程揺れたが、その後減衰に悩まされた。その時、上記シンガポールのことをちょっと思い出す。35F だったら揺れひどいだろうなあ。その後、近くのビルにいた友人がいて、彼は 33F にいて、約 100 cm 程度揺れたらしい。そして、窓を見たら、ゴンドラに乗った窓拭き職人 2 人は顔面蒼白。ビルの中に入れてあげたかったが、高層ビルでは窓が開かないようになっていて、窓を開けることができなかったそう。

笑いのポイント(笑点)

ま: 窓(ま)ど開けると、ものすごい風が吹きこむ・高くなる程強力に。

ど: (ど)んな高層ビルでも、窓は開けることはできないらしい。

あ: (あ)のときの 311 の地震でも

か: (か)わいそうな窓ふき職人、生きた心地がしなかっただろうな

ず: (ず)っと、じっとして揺れがおさまるのを待つしかない、辛い長い時間だったと思う。無事でよかった。



強風、地震には弱い高層ビル群。

広壮感あり、景色もいいが、一端非常時になると、大変だと・・・、一時だけ。

設計者はこう、そうだといろいろと構想を練って検討したのであろうが、自然現象の影響をどこまで配慮したのかと疑問に思う。特にその中で、高層ビルの窓の清掃はいつもリスクを伴う感あり。



下記にニュース記事抜粋(ご参考)・・・現実に行き起きているケース例

高層ビルの清掃中、強風によって足場が大揺れ。制御不能になりました。清掃作業の足場が激しく揺さぶられ、ガラスの壁に何度も激しくぶつかります。

足場には 2 人の作業員が乗っていて、そのうちの 1 人が壁にぶつかった衝撃で足場から投げ出されました。カナダ中部で 25 日に起こったこの事故の目撃者によりますと、投げ出された男性は約 20 分の間、宙づりになっていたということです。その後、作業員は、はしご車で駆け付けた地元の消防によって無事に救出されました。けがはなかったということです。当時、現場周辺では強風注意報が出ていました。

以上

[テレ朝news] <https://news.tv-asahi.co.jp>

もっと見る

以上

土地面積の少ないシンガポールではどうしても高層マンションが進行しがち。
日本でもタワーマンションとか高層マンションが乱立してきている。武蔵小杉等顕著
EX:風の流れが変わる等・・・自然現象へのリスクをどこまで配慮しているのかとても疑問
このようなリスクの検討等忘れてはならないことだと思う。
タワーマンばかりでなく、気象変動も気になる。環境問題もある。